

令和7年度 宮崎県学校教育計画懇話会 各委員からの主な意見

日時 令和8年2月9日（月）午前10時から正午まで

場所 県庁防災庁舎72号室

テーマ 今後の県立高等学校の在り方について（2040年に向けた県立高校の姿について）

- 今年生まれた子どもたちが中学校を卒業する2040年に向けて、この先の世の中がどうなっていくのか、子どもが地域の中でどのように活躍していくのか、国のグランドデザイン等の現状を保護者も含めて示していくことが必要である。
- どのような学校でも、地域連携、小中高連携を果たしながら、地域と結びついて、多様な学びを実現するという責任がある。地域を活性化していくのは、その地域に根ざして、その地域で育った子どもたちである。生徒数が少なくなったからこそ、手厚い教育を提供してほしい。また、親だけでなく、社会全体で子どもを育てていくということも非常に重要である。
- 地域に県立高校は残してもらいたい。ニーズが高まる職業教育の専門学科を中心に、地域に1つしかない高校の学科をどのように整理していくのかを考えないといけない。
- 少子化が進む中でもその地域でしか体験できないことや、その地域でしか得られない学びがあるので、メディア等を活用し、発信していくことが大切である。
- 国の目指す高校教育改革の視点としてAIに代替されない人材の育成があるが、理系人材の育成とともに、文系的な情緒を育むこともAIに代替されない人材育成として必要な視点である。
- 高等学校における学びの質を落としてはいけない。また、合わせて、教育の質を保つために教員の指導力の質を保つ必要がある。公私共に色々知恵を出し合って、いかに子どもたちの学びを保証していくのかを考える必要がある。